

ISAO UTSUMIYA EXPOSITION

宇津宮 功 展



《舞踏 No.77》 アクリル、画布 100.0×61.0cm 2019年 / 《Danse de Non-Lieu 77》 acrylique sur toile 2019

《会 期》2021年10月9日〔土〕—12月5日〔日〕

《開館時間》8:30～17:00（入館は16:30まで） 《休 館 日》月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日）

《入 館 料》一 般 600（550）円／高校・学生 400（350）円／小学・中学生 250（200）円

*（ ）内は20名以上の団体料金

《主催／会場》萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東町土沢5区135番地 TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405

《後 援》岩手日報社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、河北新報社、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、IBC岩手放送
テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオ・もりおか、奥州エフエム、花巻ケーブルテレビ、えふえむ花巻

※ 展覧会のスケジュール・内容は都合により変更、および中止する場合がございます。ホームページをご確認ください。
<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/yorozutetsugoro/1002101.html>

萬鉄五郎記念美術館

宇津宮 功 — 展 ISAO UTSUMIYA EXPOSITION



《赤い泡》油彩、スプレー、画布 162.0×130.0cm 1971年



《デッサン C18》コンテ、紙 117.5×90.5cm 1980年



《デッサン Nb94》コンテ、アクリル、紙 115.9×89.8cm 1983年 岩手県立美術館



《生物圏保護区 Nb291》油彩、画布 195.0×260.0cm 1990年



《折りたたまれた人間達 No109》油彩、スプレー、画布 146.0×89.0cm 1976年

盛岡出身の宇津宮 功（うつみや・いさお 1945～）は、1967（昭和 42）年、武蔵野美術大学卒業と同時にフランスへ渡り、以来西欧文化に身を置きながら、独自の表現世界を追求してきました。

渡仏後、ほどなくスプレーによる独自手法の《折りたたまれた人間達》シリーズでデビューした彼は、ヨーロッパでも耳目を集める存在となっていく。その後、絵筆の描写に移行し、少年期の原体験を基にした《イエローリバー》シリーズ、自然や生態系破壊といった現代社会への警鐘に端を発した《生物圏保護区》シリーズ。そして海外での異邦人としての我が身を振り返ったときに感じる“己の場所をどこにも置かない立場なき立場＝Non Lieu（ノン＝リュウ）”。これが《非・場》シリーズの端緒となります。このように哲学的な思考に裏打ちされた表現活動を展開してきた宇津宮が次に向かったのが、自身の底流に流れる肉体言語としてうごめく姿態でした。そこにこそ人間の原初的な動きの源が存在すると感じ、これが《舞態》シリーズへと昇華していきます。

彼の作品は一度見たら忘れられない迫力で我々を圧倒し、思考を困惑させ、かつ豊かなイメージ世界へと導きます。故郷岩手での原体験や神話的世界へと思索を巡らせ、それらが融合し綴られる異次元の空想世界。ダイナミックなストロークと力強く攻撃的な色彩で、異空間を舞う肉体のエネルギーを物語として歌い上げています。

渡仏して 50 年以上経過し、ますます円熟味を増した宇津宮の表現世界。本展は、最新作を中心に彼の歩みに迫ります。



《舞態 Nb73》油彩、画布 100.0×81.0cm 2013年



《舞態 Nb59》アクリル、画布 61.0×100.0cm 2018年



《舞態 Nb68》アクリル、画布 100.0×61.0cm 2019年



《非・場 Nb164》油彩、画布 212.0×212.0cm 2012年 岩手県立美術館寄託



《ドローイング Y51》アクリル、紙 64.7×50.0cm 2020年



《舞態 Nb75》アクリル、画布 100.0×61.0cm 2019年



《舞態 Nb25》油彩、画布 61.0×100.0cm 2015年



《SOUVENIR LOINTAIN 舞態 Nb100》アクリル、画布 149.0×488.5cm 2021年

